

## 国際シンポジウム「教育評価としての学生調査」 学生の成長を測定する方法の開発

当科学研究費研究「転換期の高等教育における学生の教育評価の開発に関する国際比較」は、研究計画の最終年に当たり、研究の成果を公表しまたそれを多角的に分析して今後の展開につなげることを目的として、同志社大学教育開発センターとの共催で、国際シンポジウム「教育評価としての学生調査 学生の成長を測定する方法の開発」を2007年2月27日に開催した。このシンポジウムではアメリカの高等教育におけるインスティテューショナル・リサーチの専門家の参加を得て、学生調査の実施と、その結果から教育プロセスを改善する試みに関して、日米におけるニーズと実態に関する報告がなされ、またそれら報告に基づいた意見交換がなされた。本報告書には、このシンポジウムにおける各報告と、それらをふまえたコメントの記録を採録する。なお各報告及びコメントのあとには、シンポジウム参加者との間で活発な意見交換、質疑応答がなされ、機関横断的な学生調査のアメリカにおける先進事例と、日本におけるパイロット事例について理解の深化がはかられた。

### 日時

2007年2月27日(火)13:30～16:30

### 会場

同志社大学 明德館1番教室

### パネリスト

Randy L. Swing氏(アメリカ初年次教育政策研究センター所長)

John H. Pryor氏(カリフォルニア大学ロサンゼルス校高等教育研究所副所長)

山田礼子氏(同志社大学教育開発センター副所長)

### コメンテーター

絹川正吉氏(国際基督教大学名誉教授)

### 司会

圓月勝博氏(同志社大学教育開発センター所長)

### 主催

科学研究費研究プロジェクト「転換期の高等教育における学生の教育評価の開発に関する国際比較」

### 共催

同志社大学教育開発センター

## 開会の辞

司会 本日は、お忙しいところどうもありがとうございます。同志社大学国際シンポジウム「教育評価としての学生調査」を始めさせていただきます。同志社大学大学長の八田英二からご挨拶をさせていただきます。

八田学長 こんにちは。同志社大学学長の八田でございます。国際シンポジウムに100名くらいの先生方、研究者、大学院生の方々に参加していただきまして本当にありがとうございます。本日のシンポジウム「教育評価としての学生調査」、18年度の山田先生が中心にやっておられる科学研究費のプロジェクト、同志社大学の教育開発センターが共催ということで開催させていただくことになりました。アメリカから二人の先生方に来ていただいております。東京から絹川先生にもおいでいただいております。厚く御礼も申し上げたいと思います。学生の調査、教育評価というキーワードが出ております。評価の問題、学生の成長を調査する関心のある分野でございます。それを使って私ども、教育の内容の改善に努めていく所存でございます。この分野、アメリカではいろいろと研究が進んでいるとお聞きしております。本日はその内容もお聞かせいただき、また私どもの大学の研究機関の教育の質的向上につなげていただければ幸いです。講演、パネルディスカッションを通して得られるところが多いのではないかと、実りある果実が得られることを期待しております。

同志社大学は今年で132年目を迎えようとしています。毎年、教育ハード面でもソフト面でも教育の質的な向上を目指していきたくて考えております。数年前には教育開発センターをつくりましたが、そこでは教育の内容、教育方法の改善に結びつける仕事をしております。国際シンポジウムを同志社大学の中で開けることは大きな喜びであり、光栄なことでございます。これからの時間、充実した3時間であることを期待しております。その後、寒梅館で懇親会も予定しております。多数の方々に参加していただきたいと思っております。本日は大勢の方々にお出でいただきました。同志社大学を代表しまして厚く御礼を申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

司会 八田先生、どうもありがとうございました。本日の趣旨に関してご説明をいただきました。教育評価としての学生調査ですが、学生の成長等をどのように測定するか、難しい問題かと思っております。私もFD関係のまとめ役をさせていただき、日本ではともすると授業評価アンケートだけで教育調査のように受け止められますが、科目評価だけではなく、いろんな形で学生の評価をつかむことが、これから高等教育の中でも重要なものかと理解しております。第一人者である先生方からお話を聞かせていただけるということで喜んでおります。今日は最初に、Randy L. Swing先生、二番にJohn H. Pryor先生、そして三番目に教育開発センター副所長である山田礼子先生から報告をいただきます。その後、絹川先生にコメントをいただきます。